



# 東京日々新聞

八百六十号



客あり曰く  
前々福沢氏が楠公  
権助の論と出せしより或之と  
激し或之と辨し一時各新聞紙上此  
論と載せざるの無し而して此一大議論の  
漸く陳腐し属し又人之之と論辨せざる者  
無しと思ひし今尚此論と記載す獨り朝野新聞  
ありと想夫あり微笑して曰く客知らば朝野新聞の元と公文通誌  
にて楠公権助の論出するの公文の二字は北條氏の舊稱に係るを以て之を  
廢し改元して朝野新聞と号す蓋し正成朝臣と  
権助野郎の頭字を取り以て朝野の二新奇字  
と括し來す是は専ら楠権二公の討論に従事  
する所以より更し権しむ不足らば何んぞ其陳腐と  
以て其本旨の存する所と斥くるを得んや余傍立  
して此問答と聽き大に感ぜる所あり夫と新と  
貴ひ口と賤ひの字内新聞の通弊あり  
而して朝野の獨り此弊風と追ひて益々芳野  
ふ孤立して梅花の元氣を今日ふ維持すは吾る  
抑誰の力なるや何んぞ知らん此權助亦南朝の  
遺民に非ざるらん

楠公

権助

野村胡堂

春



蕙齋  
芳幾

